

## 第 6 回芸備線再構築協議会の開催結果について

### 1 要旨・目的

芸備線 備後庄原駅～備中神代駅間の交通手段再構築を議論する「芸備線再構築協議会」について、令和 8 年 3 月 25 日、第 6 回協議会が開催されたため、その結果について報告する。

#### 〔芸備線再構築協議会の概要〕

- 特定区間：備後庄原駅（庄原市）～備中神代駅（岡山県新見市）
- 構 成 員：中国運輸局（議長）、岡山県、広島県、新見市、庄原市、広島市、安芸高田市、三次市、J R 西日本、学識経験者 ほか
- 位置づけ：特定区間の交通手段再構築を協議する場

### 2 現状・背景（経緯）

令和 5 年 10 月 3 日 J R 西日本が、地域交通法に基づき、備後庄原駅～備中神代駅間における再構築協議会の設置を要請

令和 6 年 3 月 26 日 第 1 回芸備線再構築協議会 開催

10 月 16 日 第 2 回芸備線再構築協議会 開催

令和 7 年 3 月 26 日 第 3 回芸備線再構築協議会 開催

7 月 9 日 第 4 回芸備線再構築協議会 開催

11 月 6 日 第 5 回芸備線再構築協議会 開催

令和 8 年 3 月 25 日 第 6 回芸備線再構築協議会 開催

※ 協議会に加え、これまで幹事会を計 8 回開催

### 3 主な議事

- (1) 実証事業 A の報告
- (2) 専門的な分析等調査事業の報告
- (3) 令和 8 年度実証事業（実証事業 A B）の実施
- (4) 令和 8 年度再構築方針作成等に関する調査事業の実施
- (5) 有識者検討会の議論の状況
- (6) 令和 8 年度芸備線再構築協議会予算（案）
- (7) その他

### 4 議事の内容

#### (1) 実証事業 A の報告

事務局から、令和 7 年度分の実証事業の実施内容や取組結果について報告

- ・ ツアー・イベント参加者数や観光商品販売数などの実績
- ・ 参加者アンケート結果の分析
- ・ 令和 8 年 2 月までに実施した取組ごとの費用と地域経済効果の試算 など

#### (2) 専門的な分析等調査事業の報告

事務局から、令和 7 年度分の調査事業について報告

- ・ 列車や二次交通利用者、イベント等参加者へのアンケート調査結果
- ・ 実証事業 A を今後も実施した場合の費用と経済効果等の暫定的な試算結果
- ・ 実証事業 B について、実証事業 A と同規模で観光ツアーやイベントなどを実施した場合の費用と経済効果等の試算結果の仮説
- ・ 旧三江線沿線自治体に対する廃線後の地域公共交通の現状等の調査結果 など

構成員	主な意見
庄原市	○ 今回の実証事業は、単発の実施であったが、それらを継続実施した場合の、新規需要の掘り起こしの可能性などについても幅広い視点で検討していただきたい。
J R 西日本	○ 実証事業Aや他の事例調査など、今後の議論に有益な材料が揃ってきており、今後、実証事業Bも取り組んだ上で、必要なデータを確保し、再構築方針の策定につなげていきたい。
神田 教授	○ 実証事業Aにより、一時的に効果が出ているものもあるが、恒久的に実施した場合に、プラスとなるかマイナスとなるかは、それを実施する体制に左右される。 ○ また、鉄道に係る費用についても、地域に発注されている場合などは、地域経済効果として、カウントすることも必要と考える。

### (3) 令和8年度実証事業（実証事業A・B）の実施

事務局から、令和8年度に実施する実証事業A・Bの内容について説明

- ・ 鉄道を活用した実証事業Aの継続実施（令和8年4月～6月）  
⇒ 芸備線の増便による鉄道サービスの拡充と二次交通の設定 など
- ・ 他の交通モード（バス）を活用した実証事業Bの実施  
⇒ 平日バス実証：令和8年5月以降～9月、休日バス実証：令和8年7月～9月

構成員	主な意見
新見市	○ 平日バス実証の運行経路が示されたが、引き続き、沿線住民の意見を踏まえた運行ダイヤや運賃となるよう、構成員と議論を進めていきたい。 ○ また、現在路線バスがない、新見市哲西地区と庄原市東城地区の間でどれくらいの需要があるのかについて、実証事業Bを通じて確認していきたい。
J R 西日本	○ 実証事業Bでは、バスならではの柔軟性と機動性を活かし、学校や医療機関、スーパーなどに直接乗り入れる路線を設定し、地域住民に利用してもらい、感想をもらうことが大事である。 ○ J Rとしても、準備や周知などしっかり協力していきたい。

### (4) 令和8年度再構築方針作成等に関する調査事業の実施

事務局から、令和8年度に実施する調査事業の内容について説明

- ・ 実証事業A・Bに関するデータ収集・分析
- ・ 地域経済効果の比較検討、将来コストやその負担、定性的な価値（利用者の利便性）など、再構築方針作成に向けた論点整理
- ・ 交通手段再構築（鉄道再構築又はモード転換）に関する再構築方針の検討

### (5) 有識者検討会の議論の状況

国土交通省鉄道局から、有識者検討会の設置経緯や議論の状況について報告

### (6) 令和8年度芸備線再構築協議会予算（案）

令和8年度予算額について、構成員間で承認

- ・ 運営費：250万円、実証事業（A・B）：1億円、調査事業：1,750万円
- ・ 構成員間の負担（国1/2 J R1/4 自治体1/4）

構成員	主な意見
広島県	○ 本県としては、「全国的な鉄道ネットワークの在り方」に対する国の考えを明らかにしていただきたいと考えている。 ○ そうした中、3/18に開催された国の有識者検討会において、有識者の意見を踏まえ、今後、国として、引き続き検討を深めていくとの発言があったことから、鉄道ネットワークの在り方などについて、議論を深めていただけるものと受け止めた。 ○ こうした国の検討状況を踏まえ、令和8年度協議会予算案を承認する。

## (7) その他

### 【構成員の主な意見】

構成員	主な意見
広島県	<p>○ 各構成員が今後の見通しについて共通認識を持って検討していくため、来年度の具体的な議論の進め方や、再構築方針のイメージ、また方針策定後にやるべきことなどを明らかにする必要がある。</p> <p>⇒ 中国運輸局回答</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 9月末に全ての実証事業が終わり、10～11月には、実証事業の検討結果をとりまとめた上で、比較検討の議論を本格化させることを想定しており、それに併せて、再構築方針のたたき台を示していく。</li><li>・ 再構築方針の具体的内容などは、今後、構成員間で議論していきたい。</li></ul>
岡山県	<p>○ 来年度は、最適な交通モードの検討を行うため、バスによる実証事業に取り組むことになるが、実施に当たっては、地域のニーズに留意いただきたい。</p> <p>○ また、再構築方針の作成に当たっては、議論に必要なデータの収集等を行った上で、結論に至る理由や考え方等が地域住民の皆様に分かりやすく理解いただけるものとなるようお願いしたい。</p>
庄原市	<p>○ 本協議会は再構築方針作成の目安とされる3年目を迎え、重要な年となる。</p> <p>○ 庄原市としては、実証事業等の評価・検証を通じて、本市のまちづくりや観光振興等の観点から、どのような交通モードがより多くの方に利用されるのか、地域経済効果の面で優位性があるのか、また、市民が望む最適な交通モードであるのかといった視点に立ちながら、構成員とともにしっかりと議論を深めていきたい。</p>
新見市	<p>○ 住民の理解と納得を得ていくためにも、今後、最適な交通モードの議論を進めていく上では、地域経済効果の比較検討や、鉄道・他モードの再構築に係る初期費用・運行費用・自治体負担など、詳細な分析をお願いしたい。</p>
JR西日本	<p>○ 令和8年度に結論が出るように、構成員間でしっかり議論していきたい。</p> <p>○ JRとしては、地域のプレイヤーの一員として、末永く地域振興に関わっていく。</p>
神田教授	<p>○ 広島県から指摘のあった、再構築方針に何を盛り込むのかについては、早急に整理すべきである。その際、持続可能な地域をどう作るのか、JRなど、外部の協力を得ることも含め、今後の取組の方向性を整理していく必要がある。</p>

## 5 今後の対応

- 引き続き、「全国的な鉄道ネットワークの在り方」に係る国の考えなどを明らかにするよう求めていく。
- 令和8年4月以降も継続実施される実証事業Aについて、庄原市や地元関係団体などとも連携しながら、取り組んでいく。
- また、バスによる運行実験を行う実証事業Bについては、事業実施に向けて、具体的な運行ダイヤの検討など、引き続き、構成員間で調整を進めていく。
- 令和8年度は、基本方針で目安とされる3年を迎え、再構築方針策定に向けた議論に取り組むこととなるため、地域のまちづくりを視野に入れながら、持続可能な公共交通の実現に向けて、各構成員と議論を行っていく。

## 6 その他

### (1) 今後のスケジュール（予定）

令和8年5月 第9回幹事会

7月 第7回芸備線再構築協議会

※ 以降も協議会・幹事会を開催予定

### (2) 予算（単県）

11,248千円